清流ニューズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話（042）646-0287（代）
FAX（042）644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

令和三年度総祈願

日蓮上人御一周忌回向法要ならびに報恩御奉公成就
本年度教化誓願達成之御願
ブロック内各教区各部見直し・再編成御奉公円満成就
次世代御弘通に向けた取り組み推進 随喜感得運動励行

六月の御総講日

一日 十時　御修行日
七日 十時　バースデー総講
十三日 十時　高祖御命日
十七日 十時　開導御命日
廿五日 十時　門祖御命日
於 清流寺
十二日 十時　高祖御逮夜
十六日 十時　開導御逮夜
廿四日 十時　門祖御逮夜
三十日 十時　歓尊御命日
於 羽村別院

会議

一日　御総講後　役中会議
廿五日　御総講後　ブロック長会議
廿七日　午後一時　参事会

緊急事態宣言下 規模を縮小して奉修 羽村別院での歓尊会

奉修導師のお看経

五月九日、羽村別院に於て佛立第八世講有日歓上人御会式（歓尊会）が晴天のお計らいをいただき無事奉修されました。

ご存知のとおり、緊急事態宣言下であり、苦慮の末、参詣者を極力限定しての奉修となり、ユーチューブを活用してリモート参詣を奨励させていただきました。

その結果、はじめてリモート参詣を体験された方もおられました。

日序上人ご祥月法要
六月廿四日 羽村別院にて

今月廿四日は、当山初代住職・権大僧正日序上人の祥月ご命日です。

当日は、門祖日隆聖人の御逮夜総講に併修してお修まりになります。

午前十時開始で、終了後には、ご墓前にてのご回向も奉修されますので、奮って参詣・お焼香をお勧め致します。

朝参詣祈願週間
二日～六日
第一、二、三ブロック担当

例月二日から六日迄の五日間は、御弘通発展を祈願する朝参詣強調週間を実施しておりますが、緊急事態宣言中は祈願参詣とし、参詣も自由にまかせておりましたが、本年も、半ばを経過いたしましたので、もう一度心を引き締めてご弘通に邁進し、殊に、今月は日序上人のご祥月です。報恩の志をもってご奉公させていただきましょう。

六月二日(水)　元八王子教区
三日(木)　八王子西教区
四日(金)　八王子東教区
五日(土)　八王子南教区
六日(日)　八王子北教区

同帰亭要語録

法味供養

守護の善神は法味をなめざる故に威光を失ひ利生を止め此国をすて他方に去り給ひ、悪鬼は便りを得
（唱法華題目抄334）

法味というのは、仏法味（ぶっぽうみ）とも智法味とも申し、仏がさとられた教えを食物の味にたとえて〝法味〟というのであります。

お経には**法味増益常徳満足**（華厳経）と説かれてあります。法味を頂けば、これが滋養となって大きな力が身につくのであります。ですから「教ノママ」の口唱信行が出来ますとこれが仏祖諸天善神への供養となって守護力が倍増して一層つよく御法さまのおまもりが頂けるのであります。

さて、涅槃経には仏一代の説法たるお経を五つに分けて示されてあり、これを五味譬と申します。

これは仏を牛にたとえ、牛から出る乳が次第に精練されてゆくのを五つにわけたもので、それを、**乳味**。**酪味**。**生蘇味**。**熟蘇味**。**醍醐味**の五つに示されます。

開導聖人は御教歌に

乳、酪、生、熟、醍醐味を
五味といふ
法華　涅槃は
第五だいごみ

と、仰せられ、乳味とは華厳経。酪味とは阿含小乗の法。生蘇味とは方等諸経。熟蘇味は般若経。醍醐味は法華経、妙法のお題目を喩えたものであります。法味の最上は醍醐味で、本門法華経の肝心である上行所伝のお題目の口唱信行のことであります。したがってこれが御法味というもので、

御法味の
絶えぬ家こそたのしけれ
守護の諸天もはなれ給はず

と御教歌下されてあるのであります。

ご信者が口唱に精進しないと、守護の諸天が威光を失って遠くへ去ってしまうし、もし信心強盛でお看経がよくあがれば、いつでも諸天善神がまもって下さるというのであります。

このわれわれのお唱えするお題目が諸仏・諸菩薩・諸天善神の召しあがりもの、というわけで、**御法味**と申すのであります。

開導聖人は

されば花、ものいはねども、咲きぬれば人こゝにあつまり、水あれば月かげを宿す。いかに招けども花なきかげには人は来らず。水涸れたる池には月やどらず南○経と声する処には諸天善神必ずきたり給ひ、法味なき処には悪鬼も便りを得るなれば、謗法なく受持する人、有難きを忘れぬ人には、諸仏諸天も忘れず守らせ給ふ、故に、信者御題目をわするれば、諸仏も信者をわすれ給へり
（安楽教導抄5―7）

と、御指南下されてあるのであります。自宅における朝夕のお看経のときも、又、お助行お講参詣等の口唱も、一声、一声、丁重におもりものをお供えするように、唱えるのを**御法味を捧げる**というのであることを知って、法味供養に精進する事が肝心です。